

「プラン2025」 5年目の取組状況

「プラン2030」の策定



「プラン2025」 飲料用紙パックリサイクル 行動計画

容環協では、乳業メーカーと飲料用紙容器メーカーの会員企業から選出された専門委員によって、「総務」「広報」「イベント」「支部組織」の4つの委員会を組織し、それぞれ月に1回以上の会議を開き、さまざまな課題を検討しています。また、各委員会の委員長らで構成する「企画運営委員会」を毎月開催し、組織横断的な情報共有と活動の進捗確認を行っています。プラン2025で設定した5つの行動体系それぞれについて、2025年の活動概況は以下の通りです。

(1) 紙パックリサイクルの現状把握、ステークホルダーとのコミュニケーション

飲料用紙容器（紙パック）を資源として有効利用するための分別回収を支えるには、消費者による分別排出が欠かせません。容環協ではその状況を確認するため、消費者から回収した資源物（雑がみ、紙パック）を組成分析することで、雑がみに混入する紙パックの比率や、回収された紙パックに混じった夾雑物の内容や割合を調査しています。また、消費者の意識変化、行動変容が起こっているか評価するため、関東地方1都6県の消費者を対象としたインターネット意識調査を継続して実施しています。また、郵送アンケートにより、飲料用紙容器リサイクルの現状と動向に関する基本調査、古紙業者の紙パック取扱い意向調査を実施し、我が国における紙パックのリサイクル率や回収インフラの状況を確認しています。また、進んだリサイクル活動を行う自治体や学校に赴いてインタビュー調査を行い、水平展開につながるベストプラクティスを収集・発信しています。

現状把握のための各種調査に加え、会員企業を始めとしたステークホルダーとの意見交換を行い、古紙リサイクルに関わる事業環境の変化や、紙パックリサイクルにおける潜在的な課題を見逃さないように注視しています。

(2) 回収率向上のための啓発

プラン2025の取組みで始めたWebを活用したタイアップ広告は第12弾を数え、継続して容環協サイトへの誘導につなげています。牛乳パックン探検隊Webサイトの刷新では、調べ学習を想定したコンテンツを拡充しました。総合環境展であるエコプロ2025ではパネルと動画を使ったブースを設け、また冊子や紙パックの再生品を配布して啓発に

取り組みました。食育をテーマにしたイベントでは、市町村が主催するものだけでなく県や民間が主催するものにも参加し、紙パックの特長と分別回収の意義、リサイクルの必要性などを訴えました。地元企業が紙パックを資源としてビジネスに取り組んでいることをお伝えし、来場者の「自分ごと化」を促しました。

一般社団法人日本サステナブル・レストラン協会と連携した取組みでは、飲食店の店頭で回収ボックスを設置する取組みを複数の地域で実施できました。

Webサイト等から申込みを受け付けて紙パック回収ボックスや啓発資料を無償配布したり、自治体の指定有料ごみ袋に啓発広告を掲載したりする活動も継続しています。広告出稿をきっかけにして、市民の皆さんと意見交換する機会も得られました。

(3) 紙パックの回収・再生インフラの整備支援

飲料用紙容器の回収に使える牛乳パック型の回収ボックスを継続して無償配布しており、2024年12月～2025年11月の実績で291個を配布しました。エコプロ2024で初披露した新デザイン回収ボックスを2025年1月から配布しています。

地域ごとの回収力分析調査によって各地域や自治体が抱える課題を捉えると共に、全国製紙原料商工組合連合会（全原連）にご協力をいただき、市区町村別の紙パックの回収区分や紙パックを古紙回収する業者の情報を調査し「古紙原料問屋調査報告書」をまとめています。

(4) 次世代を担う子どもたちの環境マインド向上

紙パックは漂白された長繊維のバージンパルプから作られており、分別してリサイクルすることで有用な紙資源として活用できることを伝えるため、各地の小中学校に赴き出前授業を行っています。

「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール」に今年も協賛し、審査や表彰に参加しました。全国から2,458作品の応募があり、受賞作7点をエコプロ2025で展示しました。

(5) 活動への理解促進、活動の公表と評価

毎年の活動状況を自ら振り返り、また消費者を含むステークホルダーの皆様にお知らせするため、年次報告書を毎年、発行しています。Webサイトでは年次報告書だけでなく、各種啓発資料のPDFや、直近に実施された出前授業・イベントの記録を公開しています。

毎年4月に開催される総会においては、前年の活動を振り返って評価を行い、改善を図って当年の活動計画を立てています。

「プラン2030」 飲料用紙パックリサイクル 行動計画の検討

損紙・古紙を含む紙パック回収率は2022年度に38.7%で底を打ち、2023年度に38.8%、2024年度には38.9%と、僅かではありますが連続して増加しています。この傾向をより確実なものとし、設立以来の目標である回収率50%を実現できるよう、容環協は紙パックリサイクルに関する啓発や、体制づくりの支援に引き続き取り組みます。

プラン2010以来、容環協では5年ごとの中期行動目標を設定し、活動指針としてきました。5年前にプラン2025を検討した際と同様、専門委員から選抜したメンバー及び事務局からなるワーキンググループ(WG)を編成し、次の中期行動計画「プラン2030」の検討を進めています。WGにおいて、次の3つの重点行動を特定しました。

(1) 回収活動のさらなる強化・発展

紙パック飲料が消費される次の主要3分野において、回収率の向上を目指して働きかけを並行して進めます。

A) 家庭系： 紙パック飲料の出荷量のうち85-90%を占め、使用済紙パックが発生する主要場面です。使用済紙パックが引き続き資源として再生紙メーカーで活用されていくには、古紙流通市場における安定した物量が必要です。そのため、発生量の大半を占める家庭系の紙パックがより一層リサイクルされるような仕組みづくりや、関係者への働きかけを行います。

B) 学校給食： 学校単位・学級単位で回収に取り組むことで安定したリサイクル量を確保できる点が強みです。10年ほど前までは70%以上の回収率があり、現在は

40%台に落ち込んだものの、依然として3分野で最も回収率が高い分野です。コロナ禍により一時的にリサイクル活動を停止した学校もありましたが、再開する動きが見られ、回収率の牽引役として引き続き啓発・支援をしていく分野です。また、リサイクルの習慣を身につけることで、成長して社会人となり家庭や職場で紙パックリサイクルを続けることが期待できるため、啓発活動には将来投資としての意味合いもあります。

C) 業務用： 紙パック飲料の利用や使用済紙パックの回収に関する状況把握が難しく、なかなか働きかけが進まなかった分野でした。プラン2025の取組みを通じ、地域の商工会議所・商店街を介した連携や、大規模店舗のテナントどうしの協力などを活かし、紙パックリサイクルの取組みを大きく進展させた事業者もありました。取組みの水平展開や新たなチャレンジを行うことで、回収率の大幅な向上が期待できます。

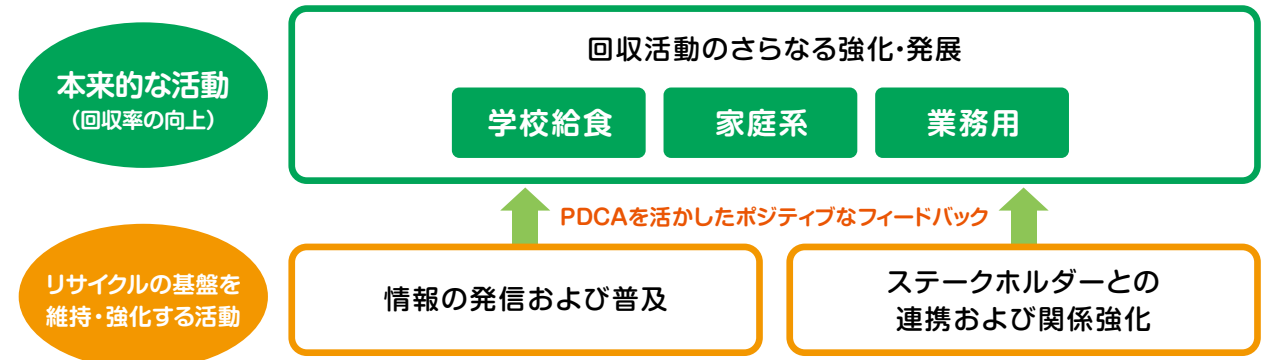
(2) 情報の発信および普及

紙パックのリサイクルは、各地域の古紙回収・流通のネットワークを活用して行われているため、地域により回収の場所・方法が必ずしも一定していません。各地の事情に応じて経済合理的な方法でリサイクルされている面もありますが、消費者にとっては「わかりにくさ」の要因にもなっています。これらの是正に取り組みます。

(3) ステークホルダーとの連携および関係強化

紙パックのリサイクルは、制度を作り回収の一部を担う行政・自治体、紙パック飲料の販売に加えて使用済紙パックを回収する小売事業者、紙パックを別の紙製品に生まれ変わらせる再生紙メーカー、回収された資源を再生紙メーカーの求める仕様に合わせて納める古紙問屋などからなるネットワークによって支えられています。そのほかにも紙パック飲料を製造する飲料メーカーや、業界団体が連携して成り立っている紙パックリサイクルシステムを維持するとともに時代の変化に適合させ、より効率的に運用できるような働きかけを続けていきます。

プラン2030の概要(案)



リサイクル促進意見交換会

飲料用紙パックリサイクルの調査



関係団体が多数集い、
リサイクルの現状と課題を
話し合う貴重な場に。

【第37回飲料用紙パックリサイクル促進意見交換会】

2025年2月18日、農林水産省食品ロス・リサイクル対策室、同牛乳乳製品課、経済産業省素材産業課、同資源循環経済課、環境省リサイクル推進室、自治体、市民団体、古紙回収業者、製紙メーカー、流通事業者、乳業メーカー、飲料用紙容器メーカーなど約60名参加のもと、Web会議にて開催しました。

最初に容環協の伊藤常務理事から、紙パックリサイクルは1984年に山梨県の主婦の「もったいない」という呼びかけで始まり、『洗って、開いて、乾かして』の日本独自の回収システムとなり、今後も守っていききたいシステムの一つであること、2023年度実績では回収率が上昇に転じたのでさらに対策を講じていきたいとの挨拶がありました。三省からは本意見交換会への期待のこたえをいただきました。

次に取組状況報告として容環協から、組織構成と活動テーマ概要を説明し、中期行動計画「プラン2025」の活動状況を報告しました。

調査会社からは、2023年度の回収率調査結果の詳細内容として、飲料用紙パックの回収率は38.8%、使用済紙パックの回収率は29.8%とそれぞれ前年度比0.1ポイントと0.4ポイント上昇し、他の古紙として回収され紙パックとして分別されたものを分子に加え、まな板などに再活用されたものを分母から引くと、それぞれ41.5%、32.2%と試算される



容環協事務局より活動経過を報告

こと、店頭回収が減少し集団回収は下げ止まってきたこと、特に学校でのリサイクルは前年度比3.7ポイント上昇したことなどの説明がありました。

自治体が進めた特徴ある取組みとして、相模原市からは学校給食用牛乳パック(学乳パック)リサイクル再開の取組み、座間市からは古紙リサイクル総量を増やす取組みについて、それぞれ報告していただきました。取組内容の一部は、容環協年次報告書2025に掲載しています。

後半の意見交換では、紙パックの回収に関する課題や成功事例が共有されました。学乳パックの回収率が上向いてきた状況やさらなる対策などが報告されました。店頭回収では、アルミ付き紙容器と未晒し(漂白していない茶色の)原紙を使用した紙容器の回収における課題について意見交換しました。

資源循環への対応が求められる中で紙パック回収率50%の目標達成に向けてステークホルダー間のコミュニケーションがよりいっそう重要と認識しました。

【紙パックリサイクル促進地域会議in関西】

2025年2月14日に大阪市総合生涯学習センターにて市民団体、古紙回収業者、製紙メーカー、流通事業者、乳業メーカー、飲料用紙容器メーカーなど約40名参加のもとWeb会議との併用で開催しました。関西地区で課題となっているアルミ付きと未晒し原紙使用紙容器の回収についての情報交換を行いました。



市民団体及び事務局の参加者

【製紙メーカー意見交換会】

2025年7月8日に静岡県富士市のふじさんめっせ会議室にて紙パックをリサイクル活用している製紙メーカーや古紙回収業者などを招いて約25名参加のもとWeb会議との併用で開催しました。学乳パックの回収再開に向けた動向とアルミ付き紙容器の回収について情報共有を図りました。

紙パック回収率の
実態把握や向上策検討に
つながる各種調査を
行っています。

【2025年 組成分析調査】

コロナ禍により一時中断していた組成分析調査を2023年より再開し、2025年は名古屋市(3月)、松江市(5月)、富士市(6月)、静岡市(10月)、野田市(12月)、の5か所で実施しました。

これら一連の組成分析調査は、古紙問屋に回収された「古紙・雑がみ」と呼ばれる再資源物の中に、飲料用紙容器(紙パック)がどの程度の割合で混入しているかを定量的に把握することを目的としました。これにより、古紙リサイクルの品質向上および分別効率化に向けた現状分析と課題特定につなげたいと考えています。

紙パックは、その繊維が良質であるため、トイレトペーパーなどの再生紙製品の原料として高く評価されています。しかし、一般の古紙回収ルートに混入した場合、その分別が不十分であると、再生紙の品質低下やリサイクル工程における負荷増大を招く可能性があります。現状の古紙回収システムにおける紙パックの混入実態を把握することは、より効果的な分別啓発活動や回収システムの改善策を検討する上で不可欠な基礎調査です。これにより、住民への具体的な分別啓発施策の企画、古紙回収業者へのフィードバックと分別精度の向上提案、リサイクル工場における選別工程の最適化検討などへの効果が期待されます。

容環協では古紙問屋、印刷工業会液体カーボン部会、紙製容器包装リサイクル推進協議会と定期的な連携を取り、引き続き分析調査へ参画してまいります。



松江市組成分析調査

【2025年 飲料用紙パックのリサイクル行動調査】

プラン2025より実施している飲料用紙パックのリサイクル行動調査は、今回で4回目となり生活者の紙パックリサイクルに対する行動傾向を把握する重要な現状分析データとなっています。今年度も関東の1都6県(東京、神奈川、埼玉、千葉、茨城、栃木、群馬)に絞り込み、15～79歳の男女計1,500人を対象に調査を行いました。

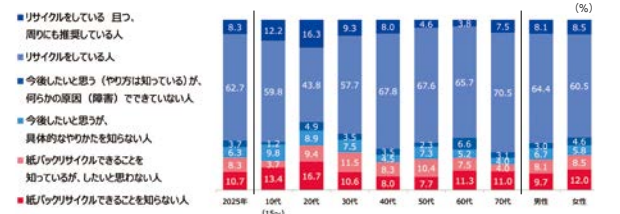
本調査の結果、紙パックをリサイクルしている比率は約71%で推移しており、大きな変動は見られませんでした。しかし、「リサイクルしたいがやり方を知らない」という層も一定数存在し、特に若年層ではその傾向が顕著です。

年代別では、20代が「リサイクルできることを知らない」比率が高い一方で、「リサイクルを周りにも推奨している」意識も高く、リサイクルへの潜在的な意欲がうかがえます。このことから、若年層は適切な情報提供や働きかけによって、リサイクル行動を促進できる大きなポテンシャルを秘めていると言えます。

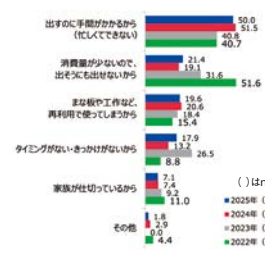
リサイクルを阻害する要因としては、「手間がかかる(忙しくてできない)」が引き続き上位を占めています。特に「洗って切り開く」「乾かす」といった作業、「回収場所にもっていく」事にハードルを感じる人が多いことが示されました。

これらの結果から、今後は若年層に特化したきめ細かな啓発活動や、リサイクル工程の手間を軽減する工夫、そして回収システムの検討が、リサイクル率向上に向けた重要な施策になると考えられます。特に、若年層の接触媒体を活用した情報発信や、リサイクル行動への動機付けとなる具体的なメリットの提示が効果的と考えられます。

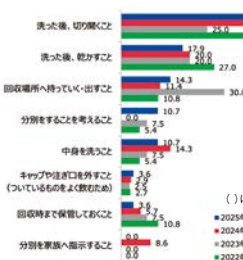
紙パックリサイクル状況(年代別・男女別)



リサイクルに出さない理由



最も手間がかかるもの





WebやSNSを活用した
タイアップ広告、自治体のごみ袋
広告を使って啓発しました。

WebやSNSを活用したタイアップ広告を継続しています。2022年からの計12回で、Web広告の累計ページビュー(PV)は約190万PVあり、Web広告からの容環協HPへの来訪数も伸びています。1月(第11弾)には「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール2024」入賞作品、4月(第12弾)には分別排出することの大切さを取り上げました。



grapee.jp



タイアップ広告第11弾

タイアップ広告第12弾

2019年から、各自治体が指定している「可燃ごみ袋」に「紙パックは捨てずにリサイクル」のメッセージを掲載し、紙パックを可燃ごみではなく資源として排出するよう、住民に啓発する取り組みを進めています。2025年度は、東京都羽村市、東京都八王子市、東京都三鷹市、神奈川県茅ヶ崎市、神奈川県逗子市、愛知県犬山市、北海道帯広市の7市で広告を掲載しました。ごみ袋の購入時や使用時に容環協のメッセージを確認頂けるものと思います。



逗子市の指定ごみ袋

【SRAジャパンとの取り組み】

容環協は主に飲食店における業務用領域での紙パック回収について、2025年度も一般社団法人日本サステイナブル・レストラン協会(SRAジャパン)と連携した取り組みを継続しています。活動の中心となるのが、今年度で4年目となる「FOOD MADE GOOD紙パック 50アクション」キャンペーンです。このキャンペーンは、飲食店における紙パックの回収啓発と回収量向上を目的とし、回収ルートの設定と定着を目指した実証実験です。今年度は8月1日から9月30日のうちの1ヶ月間、全国で9か所のエリアが参加して行われました。



SRAジャパンInstagramでの紹介



FOOD MADE GOOD Japan Awards 2025 BESTリサイクル賞の授与

11月17日には、SRAジャパンが主催する、レストランのサステナブルな活動を表彰する式典である「FOOD MADE GOOD Japan Awards 2025」が開催され、容環協が「BESTリサイクル賞」のスポンサーとしてプレゼンターを務めました。キャンペーン参加エリアから厚木、神戸、那須塩原・宇都宮、大阪・阿倍野エリアがファイナリストに選出され、もっとも地域連携を進めることができた厚木エリアが、2度目の「BESTリサイクル賞」の栄冠に輝きました。

容環協では引き続き、業務用領域における紙パック回収率向上に向けて、取り組みを行います。

【第25回 牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール】
表彰式 2025年12月27日

25回目となる「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール」が開催され、全国の小学校より2,458作品の応募がありました。いずれも力作ぞろいの中、厳正な審査の結果、受賞7作品が選ばれました。入賞された皆様、おめでとうございます。

最優秀賞は「永資月鳥(えいしげつちょう)」。細く切った紙パックを編み込み胴体部の細かな羽毛を表現したり、ラミネートをはがして毛羽立たせた紙で翼の大きな羽毛を表現したり、同じ羽毛でも異なるニュアンスが表現されています。不死鳥からインスピレーションを受けた作品のタイトルには、資源が繰り返しリサイクルされるイメージから「永資月鳥」と造語を当てました。

表彰式は東京駅近くの会場にて開催され、審査委員長の東京国立博物館・藤原館長、実行委員長の容環協・柳田会長をはじめ、審査委員の方々から受賞者に賞状・トロフィー・副賞が贈られました。

受賞作品は容環協の「牛乳パックン探検隊」ホームページで紹介されています。



最優秀賞「永資月鳥」



表彰式の様子

【SDGs Week EXPO 2025／エコプロ2025】
2025年12月10日-12日

東京ビッグサイトで開催された本展に出展しました。小・中学生に紙パックの特徴、紙パックリサイクルの意義と環境への貢献、リサイクルのルール、森林管理、リサイクル工場のような楽しく学んでもらえるようにしました。前年好評だったスタンプラリーを踏襲し、スタンプラリーに参加した小学生には再生紙でできた景品をプレゼントしました。「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール」受賞作品を展示しました。来場された方々から感嘆の声が上がっていました。

エコプロ2025の累計来場者数は前年より少ない59,873名でしたが、容環協ブースには前年より多い約3,600名の方が足を運んでくださいました。

今回の展示を通じて、「紙パックのリサイクルが、身近で手軽に出来る地球にやさしい取り組みであること」を多くの方々に訴求することができました。



パネルを使った説明

盛況だった容環協ブース

《受賞作品》

- ◆最優秀賞
『永資月鳥(えいしげつちょう)』
川崎 実莉さん(大阪府堺市立竹城台東小学校4年)
- ◆優秀賞 『エコアユモドキ』
川崎 清永さん(大阪府堺市立竹城台東小学校2年)
- ◆優秀賞 『守ろう!地球と動物の未来』
廣瀬 心美さん(東京都杉並区立桃井第二小学校5年)
- ◆全国小中学校環境教育研究会賞
『自ぜんと動物の多そうアート』
伊藤 鈴桜さん(長野県岡谷市立長地小学校3年)
- ◆持続可能な社会を作る元気ネット賞
『思い出のアオウミガメ』
藤原 悠人さん(岐阜県大野町立西小学校5年)
- ◆日本乳業協会賞
『生瀬タワー』
有川 蒼桜さん(茨城県大子町立生瀬小学校4年) ほか
- ◆全国牛乳容器環境協議会賞
『ミルクアンブレラ』
桑田 彩佳さん(埼玉県所沢市立三ヶ島小学校4年)

紙パックリサイクル講習会／イベント・出展

全国イベントでの意見交換や
自治体イベントでの啓発活動
を実施しました。

【京阪百貨店 SDGs 食育フェスタ】2025年5月25日

【京阪百貨店 もったいないやんEXPO】2025年7月20日、21日

京阪百貨店守口店で開催された「SDGs 食育フェスタ」と「もったいないやんEXPO」に出展しました。容環協ではパネルを使って、買い物客の皆様には紙パックのリサイクルについて啓発しました。来場された方から「買い物に行った時、回収ボックスに入れている」「分別排出していたが、何にリサイクルされているか知らなかった」など、たくさんの声をいただきました。また、紙パックの見本を使って注ぎ口付きパックもリサイクルできることなど、来場者と意見交換ができました。



SDGs 食育フェスタ もったいないやんEXPO

【食育推進全国大会 in Tokushima】2025年6月7日、8日

アスティとくしまで開催された第20回食育推進全国大会 in Tokushimaに、日本乳業協会と合同のブースで出展しました。容環協では、紙パックがトイレットペーパーやティシュペーパー、板紙などにリサイクルされることをパネルを使って説明しました。食育の啓発では、地元の農家さんや漁師さんを応援してください、と地産地消をお勧めしています。徳島県では日誠産業が紙パックを原料とした再生パルプを作っています。「県内で紙パックをリサイクルすると、地元企業の応援になりますよ」と解説すると皆さん驚いていました。



アスティとくしま(会場) 日本乳業協会と合同のブース

【むさしのエコreゾートワークショップ】2025年8月9日

武蔵野市「むさしのエコreゾート」で、「牛乳紙パックで作る手すきはがき」のワークショップを行いました。動画視聴の後、参加者全員で予め熱水に浸漬し軟らかくなった紙パックから印刷されたポリエチレンフィルムをはがし、取り出した紙を細かくちぎり、ミキサーで水を加えて攪拌してパルプ液を作成しました。紙パックから真っ白なパルプ液ができるところを歓声とともに、熱心に観察してもらいました。作成したパルプ液を加えた混合液からパルプをすき網ですくい上げた後、水分を取り除いてはがきになる工程を体験してもらい、完成したはがきを手にした児童は、大変喜んでいました。手すきはがきの待ち時間には、ぬり絵に取り組んでもらい、紙パックが貴重な資源であることを理解していただきました。



紙をたくさんちぎる 紙をミキサーにかけてパルプ液を作る



パルプ液を桶に注ぐ 紙をすく

その他 紙パックリサイクル講習会／イベント・出展

【第25回 こどもまつり】2025年3月2日

【第13回 アトムフェスタ】2025年11月2日

(新宿リサイクル活動センター)

【第4回 CHEER FAMILY ★フェスタ★】

2025年3月15日(大阪府柏原市役所前河川敷)

【こどもエコクラブ全国フェスティバル2025】

2025年3月23日(大阪府咲洲庁舎)

【2025 八王子環境フェスティバル】

2025年6月15日(東京たま未来メッセ・えきまえテラス)

【令和7年度 野田市環境フェア】

2025年10月18日(野田市役所1階ロビー)

【ひょうごSDGsフェスタ】

2025年10月25日(神戸国際展示場)

【紙パックリサイクルセミナー】

2025年11月7日(逗子市役所)

牛乳パックリサイクル出前授業

学乳パックのリサイクルに向けて
出前授業に取り組んでいます。

【神奈川県 川崎市立宮崎小学校】2024年12月12日

【神奈川県 川崎市立大谷戸小学校】2025年1月20日

【神奈川県 川崎市立小田小学校】2025年7月14日

紙パックリサイクルの意義や川崎市の廃棄物削減の取り組み、現状を説明し、「紙パックが燃やされているのにびっくりした」「牛乳パックのリサイクルが温暖化防止に貢献できるのがわかった」「リサイクルしようと思います」などの感想を聞くことができました。チップや再生パルプ、ポリエチレンなどのサンプルを手にとりて見てもらうと、興味津々でした。

(宮崎小学校 5年生6クラス194名受講)

(大谷戸小学校 5年生5クラス165名受講)

(小田小学校 4年生3クラス89名受講)



市民団体のお話

【大阪府 泉佐野市立佐野台小学校 留守家庭児童会】
2025年8月18日

「リサイクルありがとう」の言葉が家にある飲料や学校給食牛乳の紙パックにも書かれていることを伝えると、「知らなかった」「確認してみる」との反応がありました。

(学童保育児童 29名受講)



スライドをみて真剣に聞くようす

出前授業の実施例(学校の要望や授業時間により調整)

- ・講義 「3Rについて」「牛乳パックをリサイクルする手順や利点」
- ・動画視聴 「牛乳パック探検隊」
「学校給食牛乳パックのリサイクル事例」
- ・体験学習 「牛乳パックで紙すき」「3層からなる紙パック」
「紙パックの手開き」

協働実施団体(川崎市でのコラボレーション)

- ・3R推進プロジェクト(市民団体)
- ・グリーンコンシューマグループかわさき(市民団体)
- ・川崎市環境局(減量推進課)

【大阪府 大阪市立関目東小学校】2025年10月6日

「(紙パックが)いろいろなものにリサイクルされるのがわかり勉強になった」「リサイクルの大切さがわかりました」「今まではなんとなく捨てていたけれど、リサイクルしようと思った」という感想をもらいました。「帰ったらおうちのの人にリサイクルの話を聞いたことを伝えてくださいね」とお願いして締めくくると、授業の最後にはまた、元気に「ありがとうございました」と声を響かせてくれました。

(小学校 4年生3クラス106名受講)



紙パックは四角い紙を貼り合わせて作られます

【大阪府 和泉市立伯太小学校】2025年10月7日

紙パックリサイクルは主に保護者がやるものと思っており、自宅で実際にリサイクル作業をしている児童は少なかったものの、授業後の感想では「紙パックのリサイクルは環境に良いことがわかったので、これからやっていきたい」との声も聞かれました。「木材は無駄なく利用される」ことや「資源循環の大切さ」についても長く記憶に留めてほしいと感じました。

(小学校 6年生3クラス93名受講)



紙を作ることで木を無駄なく使うことをお話ししました